



# 電車どおり

平成19年8月25日発行 第24号 函館中央病院 発行責任者 橋本友幸



基本方針

私たちは、患者さまの権利とプライバシーを尊重した医療を提供します。  
 私たちは、チーム医療を実践し、患者さまに応じた医療を提供します。  
 私たちは、地域の医療機関との連携を強化し、医療環境の発展と充実を図ります。  
 私たちは、日々研鑽し、最高で高次の医療を提供します。  
 私たちは、一人一人が幸せで働きがいのある病院を目指します。

## 「体外衝撃波結石破碎療法」導入

### 切らずに治療できる尿路結石症の治療法

体外で発生させた衝撃波を集束させて体の外から結石に当て、結石を砂状に細かく砕く治療法です。治療中、患者さまは横になったまま約1時間で終了します。砂状になった結石は、排尿と



体外衝撃波結石破碎装置

同時に体外に排泄されます。この治療法の特徴は、体に傷をつけない為、安全な治療法であり、入院期間が短い為、短期間で職場や日常生活に復帰することができます。また、高齢者の方でも治療可能です。

お問い合わせは当院泌尿器科外来へお願いします。

## 特集

### ～ キズのお話 ～



形成外科では皮膚にできたキズ(外傷による創傷・熱傷・難治性潰瘍・褥瘡)を治療しています。

ケガをした時には外科にかかって縫ってもらおう、というのが一般的ですね。形成外科では傷あとがきれいになるように丁寧に縫合するので特に顔面の外傷を扱うことが多いです。でも、これだけは覚えておきたいのが、形成外科で縫合しても傷がなくなるわけではないのです。より目立たない傷になるように縫合するのです。

今までは傷を感染させないように消毒が大切だとされてきましたが、今では消毒はしなくて良いという学説が一般的になっています。熱傷や褥瘡は水(水道水)で洗うことが大切な治療であったりします。また、以前に受けた傷あとが、きたなく目立っていてさらに引きつれがある、なんて場合もありますね。それも形成外科で今よりもきれいに直すことができます。くどいですが傷はなくなるわけではありません。目立たなくすることができる、ということです。

### 中央・病院・前

函館の夏の一大イベント「港まつり」へ参加しました。沿道



から温かい声をかけていただきありがとうございます。昨年に続き「優勝」とはなりませんでしたが、「準優勝」をいただきました。

8月も終わりとなりますが、全国的に異常とも言えるような暑い日が続いています。函館もまだまだ残暑が続くそうですね。日よけ傘を持つなどし、水分補給をマメに行い、熱射病や脱水症に注意しましょう。



手術前のキズ。頬が完全に裂けている。形成外科による縫合手術が必要。

手術



手術後の頬。キズはほとんど目立たず、顔面神経マヒを残すことなく回復している。

### 「やけど」の話

熱傷には命の危険がある重症熱傷からちょっとした小さな熱傷まであります。重症熱傷は火事場で受傷する場合などで、当院では東5病棟熱傷センターで治療します。小さな熱傷・軽い熱傷でも甘く見てはいけません。適切な治療をしないと感染を起こし敗血症になったり、傷あとがひきつれて汚い跡になったりします。以前は軟膏を塗る外用療法だけでしたが、今は創傷被覆材というものを使用して、より痛くなくよりきれいに治す事ができるようになりました。

### 「難治性潰瘍」

これは手術をすることが多いです。下腿にできる下腿潰瘍は静脈瘤などの血液の還流不全でできたり膠原病などの自己免疫疾患でできることが多いです。心臓血管外科での治療と合わせて形成外

科で皮膚移植をします。糖尿病の人にできる糖尿病性潰瘍や血流が悪いために起こる潰瘍というものもあります。足の指が腐ってきて、ミイラのように黒くなったりどろどろ溶けて来たり皮膚に穴があいたりしてきます。下肢の大切断にならずにすむように、なるべく足を残してあげられるように、糖尿病内科・心臓血管外科と共同で治療します。しかしこれらは長くかかることが多いです。

### 「褥瘡」

いわゆる「床ずれ」です。昔は治らなるとされた褥瘡も今ではかなり治るようになってきました。形成外科では手術だけではなく、保存的治療もがんばっています。創傷被覆材を用いたり、浸出液を吸引する「陰圧閉鎖療法」をしたり。また、褥瘡を治すには傷だけを見てはだめで、「エアーマットレス」という圧のかからないマットを敷いたり、栄養状態を栄養管理士と相談したりしなければなりません。チーム医療が大切だということですね。



形成外科スタッフ

形成外科医師：木村 中

## 大盛況！公開セミナー

8月11日(土)当院にて、北海道大学整形外科 金田清志名誉教授を講師とし、側わん



症「成長期の背骨の曲がりについて」という内容で公開セミナーを開催しました。現在通院している患者さまや側わん症の手術を行った方など、約60名の参加がありました。

金田先生の側わん症外来は毎月第2土曜日に当院で行っております。お問い合わせは整形外科外来受付までお願いします。

「側わん症」について広報誌「電車どおり」第18号(総合案内所に設置)で詳しく説明しております。もう一度ご覧下さい！

## 転倒防止の為に・・・

1階総合案内所横の通路は、少しではありますが傾斜になっております。



改修前

これまででは、つまづいたり、杖などのひっかかりを防止する為に『上がる』『下がる』の案内表示を床に付けておりましたが、より傾斜部分を目立たせるように、傾斜部の床色を変え、床の材質も滑りにくいものにし



改修後

ました。患者さまにとって、傾斜は無いほうが快適です。当院としましては、可能な限り“安全性の向上”に向けて取り組んでまいりますのでご理解の程よろしく申し上げます。



## 肩こり・腰痛 ～第8章 首の生活上の注意点～

今回は、肩こりや腰痛になってしまった時の生活で注意することをお話したいと思います。日常生活の中では、何気ない姿勢や動きで首や腰を痛くしてしまうことがあります。その為、生活の中から予防することが必要になってきます。

ここでは、**首の注意点と対処法**をお話します。



### 1. 首の注意点

首の後ろの筋肉は、起きている時は常に働いています。

座っている時や立っている時に、あごを出した状態や下を向いた状態(本や新聞を読んだり、パソコンをやる姿勢)では、首の後ろの筋肉に大きな負担がかかります。このような姿勢を長時間続けると首の後ろの筋肉が異常に働きすぎてしまい、筋肉が休まらなくなってしまいます。それ以外にも寝るときに、枕が高すぎや逆に低すぎることで、同様のことが起こります。このようなことが原因で筋肉のコリ、つまり筋肉が硬くなってしまい痛みが出てしまいます。さらに、首を振りまわすような動き(むち打ちのような状態)をすることで痛みが出てしまうので気をつけましょう。

### 2. 対処法

本や新聞を読むときやパソコンをやる時などは、10分や20分程度に一度休むことが良い方法です。寝るときの枕は、首が体と真っすぐになるような位置にあることが理想です。急激に振り向いたり、過度に曲げたり回したりすることも気をつけたほうが良いでしょう！



些細なことですが、小さなことから気をつけることで予防になると思います。首が気になる方も、今は大丈夫な方も生活での自分を見直してみましょ。首は、大事な頭を支えているので十分に気をつけましょ。次回もどうぞご覧ください。

理学療法士：小俣 純一

## 今月の笑顔

こんにちは。保育士の 佐々木 愛です。保育所では、0歳から5歳までのかわいい♡子どもたちの笑顔がいっぱいです。毎日、子どもたちと散歩に行ったり、水遊びをしたりと楽しく過ごしています。これからも、元気よく笑顔を忘れず、子どもたちに接していきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈ひします。



保育士：佐々木 愛

『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先： 0138-52-1231(内線261)

次号発行予定は9月25日です。お楽しみに！！